



# 日経 STOCKリー グ

株式投資を通じて社会をまなぼう!

# ティーチャーズガイド

探究学習や「総合的な学習(探究)の時間」でのご活用に向けて-

#### 目次

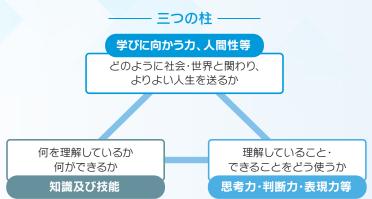
探究学習での活用のススメ	P 2
取り組み方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 3
レポート作成のきまり	P 5
指導のポイント	P 6
お役立ちサイト	P 7
実践校訪問 岐阜県立岐阜商業高等学校	P 8
実践校訪問 横浜女学院高等学校	P12

#### 探究学習での活用のススメ

日経STOCKリーグは、学校教育の場において金融・経済を学習するプログラムとして企画され、これまで25年続く歴史あるコンテストです。

このプログラムは、金融や株式投資に関する知識を競うものではありません。解決したい社会課題や 自分が好きなこと、興味をもったことなどから自由にテーマを設定し、そのテーマに関わる企業を選び 調査・分析し、そのプロセスやフィールドワーク実践の状況、取り組みを通じて、気づいたこと・学んだ ことをレポートで表現するものです。

正解はありません。日経STOCK リーグに取り組むことで、企業や社会 を見る目を養い、主体的・対話的で深 い学びを得ることができます。生徒た ちの学びに寄り添いながら、先生方も 一緒に経済や株式についての理解を 深めることにつながります。



(引用:『今、求められる力を高める』総合的な学習の時間の展開(高等学校編)総合的な学習(探究)の時間:文部科学省)

#### 探究学習で取り組む日経 STOCK リーグ

#### 1. 社会に目を向け、主体的な学びにつながる株式投資というテーマ

株式投資の対象となる企業は、日常生活やさまざまな社会課題の解決に密接に関わり、本業を通じて社会に貢献しています。生徒が関心をもつ多種多様なテーマについても、きっと取り組んでいる企業があるはずです。投資という観点で企業を見ることで、自分が学びたいテーマを深掘りし、主体的な学びにつながります。

#### 2. 協働的に学ぶことができるチームでの取り組み

日経STOCKリーグは、個人ではなくチームでの参加が必須です。チームで取り組むことで、チームワークやコミュニケーション能力を養う機会になります。また、企業へのフィールドワークでは働く大人との関わりを通し、学習と実社会とのつながりを学ぶ機会になります。

#### 3. 生徒が自主的に"探究"するためのサポート体制

探究学習では、課題設定、情報収集、整理分析、まとめといった「探究の過程」が大切です。この過程において、日経STOCKリーグでは、学習のサポートとなる様々な教材やツールを用意しています。

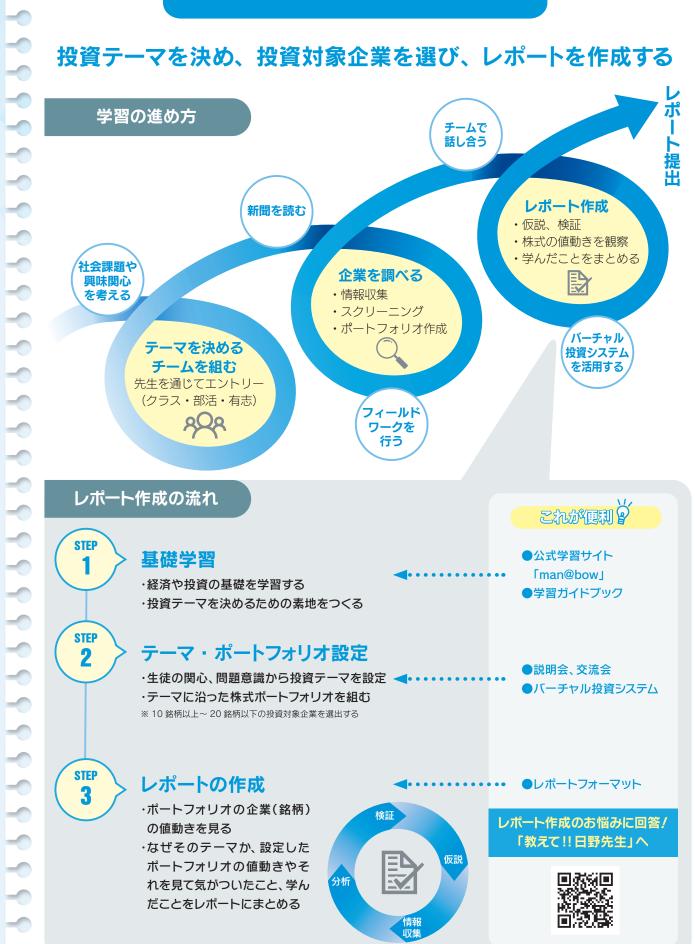
また、バーチャル投資システムを活用して、実際の株価の動きを体験できます。

#### 4. モチベーションアップにつながるコンテスト形式

日経STOCKリーグは、全国の生徒が参加するコンテストで、最優秀賞チームは海外研修旅行に招待します。 コンテスト形式だからこそ「せっかくやるなら入賞を目指そう!」という意欲にも期待できます。

#### 取り組み方

#### 投資テーマを決め、投資対象企業を選び、レポートを作成する



#### 取り組み方

日経STOCKリーグは、さまざまな取り組み方が可能です。各学校の生徒、学科や学年の特徴にあわせて、 日々の学習にお役立てください。

- ●「総合的な学習(探究)の時間」での実施
- ●公民(公共)や家庭(家庭基礎)の時間で「金融経済教育」として取り組み、 レポート作成は課題とする
- ●部活動や有志のメンバーで参加 など



#### 例:「総合的な探究の時間」を活用した指導とスケジュール

		一次締切(6月末) までの 参加チームの場合	最終締切(9月上旬) までの 参加チームの場合	
オリエン テーション	<ul><li>(時数目安:1~2)</li><li>・日経STOCK リーグ説明</li><li>・過去の入賞レポートの研究</li><li>・チーム決定</li></ul>	7月	9月	
基礎学習 テーマ設定	(時数目安:2~4) ・経済基礎知識の学習 ・投資テーマに対する調査や分析 ・投資テーマの決定	7月~8月	9月~10月	
投資対象企業の 決定	(時数目安:4~6) ・対象企業リストアップ ・条件の決定 ・10~20社に絞り込む ※スクリーニングの回数は問いません。	9月~10月	10月~11月	
レポート 仕上げ	・条件の決定 ・10~20社に絞り込む ※スクリーニングの回数は問いません。 ※スクリーニングの回数は問いません。 (時数目安:4~6) ・これまでの活動まとめ ・株価を確認、分析 ・投資家へのアピールポイント	11月~12月	11月~12月	
	レポート提出	1 月上旬		

※ 取り組み時期や時数は目安です

#### フィールドワークの実践

対象企業や官公庁などにインタビューや アンケート調査を行うと、レポートにより 深みがでてきます。企業インタビューに使 えるフォーマット等、学習をサポートする 「お役立ちテンプレート集」を作成しました。 ぜひご活用ください。

#### <u>バーチャル投資とは?</u>

日経STOCK リーグでは、「バーチャル投資システム」を使った株式投資の売買体験ができます。株式投資を体験しながら、ポートフォ



リオの構築や値動き分析を行ってください。

333333333333333333333333333333

#### レポート作成のきまり

募集要項の「レポート提出要項」を守って作成してください。それ以外の書式・体裁等は自由ですが、レポートフォーマットも用意してありますのでご活用ください。

下記1と2の両方の課題を満たしたレポートを、チーム単位で提出してください。

レポート提出要項

- 1. 「基礎学習」の実施(必須)
- 2. レポート作成(体裁は自由、「レポート書式」の使用は任意)



#### レポートの構成例

#### ■ タイトル

レポートの内容に合った魅力的なタイトルをつけてください。



#### 2 基礎学習(必須)

学習ガイドブックを読めばすべての設問に 回答できるようになっています。

#### レポートフォーマット 学習ガイドブック



#### 3 レポート本文

99999999999999999999999999999

#### レポート本文構成例

- 1.要旨、目次
- 2. 着目した社会の事象と、経済への影響
- 3. 上記を踏まえた投資テーマとその理由
- 4. 投資対象企業の選定とその方法や基準

#### レポートフォーマット内の下記を使用してください。



- 5. 投資対象企業の株価の動きや分析
- 6. 投資家や他者ヘアピール
- 7. 日経 STOCK リーグを通して学んだこと
- 8.参考文献

#### レポート審査のポイント

- ●経済や株式投資の理解
- ②ポートフォリオの創造性、ユニーク性
- ❸表現力・文章力
- **④**学習への熱意・意気込み(アンケート調査や企業へのアプローチなどを含む)
- ⑤ポートフォリオの理論性、専門性 ※大学・専門学校部門のみ。
  - ※ポートフォリオが10銘柄以上20銘柄以下で構成されていない場合、審査の対象外となります。
  - ※ポートフォリオの評価額は審査と関係ありません。
  - ※レポートの中で取り扱うデータは出典を明記してください。
  - ※図表やグラフを用いる際には、文字の大きさは視認できる級数にしてください。
  - ※「基礎学習」を実施していないレポートは審査の対象外となります。正誤は審査対象ではありません。

#### 指導のポイント

#### 日経 STOCK リーグレポート完成までに必要な指導

## ゴールを明確にしましょう! 「オリエンテーション〕

日経STOCKリーグについての説明、取り組みに参加する狙いを伝えます。また過去入賞レポートをみて、これから書くレポートのイメージを掴むことは大切です。ホームページの「man@bow」を参照してください。



### 12

#### 投資テーマを設定させましょう! [基礎学習、テーマ設定]

普段困っていること、社会全体の課題、今後成長が期待できるテーマや領域、チームや自分の興味など身近なところから考えてもらうようにしてください。

情報は日本経済新聞、各種ホームページ、文献など様々な手段で収集し、調べるクセをつけるようにご指導を。テーマは大きな概念ものよりも具体的にフォーカスしたものの方が取り組みやすいです。

### 13

#### スクリーニングの方法は、チームで考えるよう伝えましょう! [投資対象企業の決定]

スクリーニングの切り口の例

- ①テーマによる絞り込み:業種・産業・関連する分野
- ②定量分析(財務分析):規模(売上高・時価総額など)、収益性(ROA・ROEなど)、安全性(自己資本比率など)、企業価値(PER、PBRなど)、株主還元(株主優待など)など
- ③定性分析(CSR·ESG·SDGs): 非財務面からの分析



#### レポート進行のための工夫をしましょう! [レポート仕上げ]

中間発表会、ポスターセッションなどのマイルストーンを設定し、進行状況を確認することが大切です。



#### レポートの体裁を整えましょう!

レポートの構成、読みやすさ、レイアウト、引用ルール、注の付け方、誤字脱字チェックなど基本的な書き方を伝えましょう。

#### サポート体制も充実













**①**レポート

❷野村ホールディングス

❸学習教材

4説明会や交流会(7日頃に説明会を実施

**⑤**公式学習サイト
「man@bow]

**③お役立ち テンプレート集** (ホームページからダウンロード)

フォーマット (ホームページからダウンロード)

**出張授業** (オンライン対応可) (ホームページからダウンロード) (7 月頃に説明会を実施)

#### お役立ちサイト



「man@bow」には、日経 STOCK リーグに参加する教員・生徒の皆さんに役立つ情報が満載です。





#### 《主なコンテンツ》

- ▶学習教材(ガイドブック、新聞の読み方など)
- ▶入賞レポート
- ▶参加者の声
- ▶日経STOCK リーグ説明動画・マンガ
- ▶レポート作成のヒント「教えて / 日野先生」
- ▶お役立ちテンプレート集 (情報収集、フィールドワークなどに使えるテンプレート)
- ▶よくある質問





#### 「man@bow」には、経済について楽しく学べる情報が掲載されています。

日経STOCKリーグに役立つ情報だけでなく、金融・経済教育に役立つ、教員むけの案内や、無償でお使いいただける学習教材もご用意していますのでぜひご覧ください。

#### 《主なコンテンツ》

- ▶お金の歴史雑学コラム
- ▶マンガでわかる経済入門
- ▶金融そもそも講座
- ▶出張授業のご案内
- ▶簡単?難しい?株知識
- ▶世界の取引所を知ろう



#### 野村の金融経済教育

出張授業や学習教材についてご紹介しています。



Youtubeでも、お役立ち動画を公開しています。

Youtube 公式チャンネル man@bow まなぼう

https://www.youtube.com/@manabow9311



- ▶日経 STOCK リーグの概要や解説
- ▶日経STOCK リーグ先生向け説明会(実践校の特別講演)



#### 岐阜県立岐阜商業高等学校

#### あらゆる教科の先生が指導に参加、 探究の時間を活用し、1年間を通してSTOCKリーグに取り組む



部活動が盛んな岐阜県立岐阜商業高等学校。同校は「ビジネス探究」の授業で、高校2年生の生徒全員(360名)が日経STOCKリーグに挑戦します。2023年度にはじめて学年全体での取り組みを実施。昨年度の実践とその経験を活かした今年度の計画について、早水有美先生、村井独歩先生、小島潤也先生にお話を伺いました。

対 象	高等学校 2 年生 (9 クラス 360 名)
教科・科目	ビジネス探究
時期・時数	4月~12月 28コマ

#### 日経 STOCK リーグの取り組み方

#### 教科を問わず学年の教員約20名で指導にあたる

普通科における「総合的な探究の時間」にあたる「ビジネス探究 II」という時間を活用して実施しています。4月から12月にかけて、チームの活動で日経STOCKリーグで提出するレポート作成を行い、1月以降は、生徒一人ひとりが個人の活動として論文を作成し評価に反映します。

基本的な進め方は、学習ガイドブックの流れに沿って、テーマ選定、基礎学習、ポートフォリオ作成、レポート作成という流れで進めています。年間の指導計画に落としこんだものが下記の表です。チームでの活動が主体となるため、教員は各STEPでのサポートが主な役割になります。そのため、商業科以外にも、あらゆる教科の教員が指導にあたることができます。

	STEP	時期	時間	授業内容
STEP 1	オリエンテーション	1月~2月	6	・日経STOCKリーグ概要、1年間の流れの説明 ・取り組みの動機づけ・ジャンルの決定
2	テーマ設定・チーム決定	4月~5月	5	・テーマとチームを決めるための課題交流 ・親和性の高い内容をまとめてチーム決定
3	基礎学習	5月	1	   学習ガイドブックを活用しチーム学習 
STEP 4	仮説と検証	5月~6月	4	<ul><li>・テーマについて仮説を立てる</li><li>・情報収集、企業インタビューの準備</li></ul>
STEP 5	第1・第2スクリーニング	6月~7月	4	・第1スクリーニング(テーマ関連企業の抽出) ・第2スクリーニング(経営方針や事業内容で絞り込み) ※レポート作成についての説明
	仮説と検証	8月	_	フィールドワーク(企業インタビュー)
STEP 6	レポート作成	9月	5	<ul><li>・これまでの成果をレポートにする</li><li>・ポスターセッションにて中間発表</li></ul>
	第3スクリーニング	10月	2	第3スクリーニング(10~20社まで絞り込み)
	レポート作成	10月~12月	6	<ul><li>・レポート仕上げ</li><li>・チーム間での発表会、ブラッシュアップ</li></ul>
	レポート提出	1月	1	提出作業

(実際の授業計画を元に一部改編)

#### 指導のポイント

指導にあたる先生と生徒に、学校独自で作成した冊子「探究のてびき」を配布しています。探究学習で必要な「テーマ設定」「仮説検証」「フィールドワーク」「レポート作成」の基礎知識についてまとめています。

経済や株式についての知識は、「スクリーニングに使える代表的な指標」などを簡単に紹介していますが、「学習ガイドブック」や「man@bow」に詳しくあるので、必要に応じて調べるように促しています。

教員は、年間計画に基づいた進捗の管理と、生徒が壁にぶつかった際に、教材をもとにして解決するための方法やヒントを提供するという役割に徹しています。そのため、どの教科の先生でも日経STOCKリーグの指導に関わることができています。



#### 各 STEP での進め方

ここからは、年間指導計画の流れに沿って、それぞれの STEP でどのように指導しているかをお伝えします。



**オリエンテーション**[1月~2月・時数:6]

#### 「何をするのか?」を明確にすることで、生徒も教員も取り組むハードルが下がる

オリエンテーションでは、生徒たちに日経STOCKリーグの取り組みとその意義を説明します。生徒が「何をすればいいのか?」を明確にイメージできるかどうかが、今後の進行に大きく影響すると考えています。

まず「man@bow」にある動画を見せ、取り組みのイメージを伝えます。そのうえで、本校では「日経STOCKリーグ」は興味があることや、社会課題、世の中こうなってほしいという生徒それぞれの思いをテーマに、その課題解決に貢献をしている企業を探し、株式投資を通して応援する。その過程や学んだことをレポートにまとめる活動という説明をしました。日経STOCKリーグを「経済の知識や指標を駆使した株式投資のレポート」と捉えてしまうと、「専門知識が必要で難しそう」と感じ、ハードルが上がってしまいます。

これは教員への説明も同様です。「より良い社会のために、企業を応援するレポート」であり、その過程で社会と経済の関係や、 投資の知識を学びながら完成させるものと説明をすれば、経済や投資の知識がない先生でも指導できるイメージを持っても らえると思います。本校では、20名近くの教員が指導に関わっていますが、その半分は普通科の先生です。金融や経済の知識 に不安がある先生でも、レポートの指導が中心であることがわかると、指導できるという自信に繋がりました。



#### **テーマ設定・チーム決定** [4月~5月・時数:5]

#### クラス横断で、生徒の関心を尊重したチーム編成

日経STOCKリーグのイメージができたところで、チームと取り組むテーマを決めます。今年はクラス関係なく、近いテーマに関心をもつ生徒同士でチームを設定しました。

まず、春休みに興味のあるテーマについて考える課題を出し、その内容を授業内で発表しあう時間を設けました。 その内容をもとに教員が、学習ガイドブック(P18)にあるテーマ(ジャンル)一覧を参考に大きくグルーピングし、チーム編成を行いました。 昨年はチームを先に決めてから、テーマを考えるという流れでした。 いつま

分野·企業	日付	出所	内容 (概要)	選んだ理由

【2-1】1-1でまとめたことなどを基にしながら、「今後成長が見込まれる分野」または「投資してみたい企業」について考え、それに関連する記事や情報をいくつか選び出してみよう。

でもテーマが決まらないチームが出るといった反省もあったため、教員の手間も少々かかりますが、このような形で今年は実施しています。

チームが決まった後は、チームで話し合い、レポートフォーマット(右記)を使用し、テーマを絞り込んでいきます。ここではインターネットや書籍、ニュースなどの情報を調べながら行います。昨年は飢餓問題とフードロス、キャッシュレス決済など、さまざまなテーマが出ました。

#### 岐阜県立岐阜商業高等学校

#### テーマ設定のポイント

本校では、探究学習として実施していますので、「生徒が 興味をもったことに取り組む」ことを重要視しています。テー マ設定で大切になるポイントは下記2点と考えています。

#### ①提出するレポートの完成形を知る

「man@bow」に過去の入賞レポートが掲載されています ので、読む機会を設けると良いと思います。本校では1年次 の冬休み中に、**入賞作品の研究を行いレポートを提出する** という課題を設定しました。

#### ②さまざまなテーマに触れる

春休み中の課題は「興味のあるテーマを見つける」としま した。興味や疑問の一般的な探し方は「探究のてびき」に掲 載していますが、大切なことはさまざまなニュースや世の 中の事象に触れることです。新聞やニュース、書籍、インター ネット検索のほか、NHKスペシャルなどの動画も勧めました。

R5年度 ビジネス探究 | 冬季休業課題 ~Road to 日経ストックリーグ~ 準備編①

目的 ①日経ストックリーグの完成形を知る ②色々なテーマを知り、自分の取り組みたいテーマを決めるための材料を得る ③要約する力、分かりやすく伝える力を養う

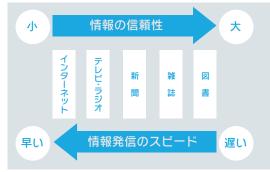
取り組み方 ①↓のURLから興味のある日経ストックリーグの入賞レポートを探す。(何回目のものでもOK) https://manabow.com/sl/resuit/ [日経ストックリータ 入資レポート] でネット検索してもOKです。 ②配布プリントに沿ってまとめる(枠のタイトルや内容は適宜変えてOK。足りなければ裏面を使

用してくださいり MetaMojiのビジネス探究Iのフォルダに「冬季休業課題(見本)」があるので参考にしてくださ

い ③1/9 朝のSHRで提出(1-20 → 担任の先生,21-40 → 副担任の先生) ④1/12 6限のビジネス探究 | の時間にグループ交流 つまり12/22~1/9の間に仕上げてください(締め切り厳守)

組 番 名前(

#### <冬休みの課題:レポートの完成形を知る>



<情報収集の方法とそれぞれの特徴>



**基礎学習** [5月・時数:1]

#### 基礎学習はチームで教え合う

テーマとチームが決まった後は、チーム活動がメインとなります。大きなジャ ンルごとに教室に分かれ、各教員を配置しますが、一斉指導は行いません。教員 は生徒から質問があれば指導を行います。

基礎学習は、レポートフォーマットの設問を埋めるというゴールのみを設定し、 学習ガイドブックをもとにチームで進めていきます。



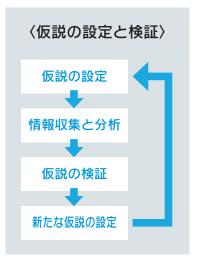


**仮説と検証** [5月~6月・時数:4] ※夏休みフィールドワーク

#### 教員は考え方を指導する ~仮説の立て方・検証の仕方~

設定したテーマに基づき、その業界の現状分析や仮説の設定、検証を行います。ここが 日経 STOCK リーグで最も大切な部分と考えていますので、なるべく時間を割くようにし ています。設定したテーマについてチームで深堀りを行い、教員は考え方や調べ方を指導 します。

仮説の検証は、インターネットや書籍などを使った調べ学習の他、企業にフィールドワー クに行き、自分たちが考えた内容についてヒアリングすることで、理論の裏付けを行います。 フィールドワークは主に夏休みに、生徒の自主性に任せて行いますが、実施前後には教員 に相談・報告に来るよう指導します。企業とのやり取りについて必要なことは資料にまとめ、 指導の時間を削減しています。





#### 第1・第2スクリーニング [6~7月/10月·時数:6]

#### スクリーニングの指標の立て方に正解はない

次のステップはテーマに該当する企業を絞り込む作業です。最終的に10~20社程度に絞り込めば良いと解釈していますが、 レポートフォーマットに沿い、3段階のスクリーニングを行う計画を立てています。

#### ■夏休みのフィールドワークの前に第1、第2スクリーニングまでを実施。

- ・第1スクリーニング: テーマに沿った業種の企業をリストアップします。
- ・第2スクリーニング: リストアップした企業を「指標」をもとに絞り込みます。 (定量評価)基本的な指標をつたえ、テーマに沿ったものを各チームで決めます。

#### ■仕上げの段階に入ってから更に絞り込みを行う。

・第3スクリーニング: さらに、数値以外の基準で絞り込みます。 (定性評価)テーマに沿ったものを各チームで決めます。

指標の一般的な捉え方は一通り示しますが、正解はありません。 指標をどう使うか、どんな基準でスクリーニングを行うかは、テーマや生徒の考 えをもとに、自由に設定して良いと指導しています。

昨年は時間が足りずに「バーチャル投資」を十分に活用できなかったため、今年はぜひ活用したいと思っています。



#### **レポート作成** [9 ~ 12 月・時数:11]

#### 進捗を揃えるために、完成までのマイルストーンとなる機会を設定

レポートフォーマットを利用してレポートをまとめます。レポートの作成は夏休みのフィールドワーク後に本格的にスタートしますが、フィールドワークに行くためには生徒たち自身の考えをまとめる必要があります。そのため、夏休み前に一度レポートの作成方法について指導し、これまでの活動をまとめるようにしています。レポート作成はチームごとに実施するため、進捗に差が出ないようマイルストーンを設定しています。

- ・9月後半:野村ホールディングスの授業(レポートの方向性などについてフィードバックをもらう時間)
- ・10月前半:ポスターセッション
- ・12月中旬: 校内発表会(各ジャンル内での発表会、意見交換)

ポスター作成に時間が必要となりますが、レポートの枠組みがないとポスターも書けません。発表があることで、進捗が可視化され、チーム同士の刺激になることを期待しています。

提出前直前の12月には、生徒同士で意見交換の機会を設け、年内にはある程度完成させ、年明けは微修正をして提出を目指すという流れで実施します。

#### おわりに

初めて日経STOCKリーグのことを聞いた時、株式投資の専門知識が必要に思え、指導に不安を感じましたが、よく調べてみると、経済や株式の知識を駆使するレポートではなく、社会課題や興味関心について深める中で、経済や金融との関わりを学ぶものだと理解できました。指導のための教材も揃っており、これであれば教員なら誰でも指導できるなと感じました。

日経STOCKリーグは、生徒と一緒に教員も学んでいくというスタンスで取り組むべきものだと思います。

#### 〈指標の例〉

基準	指標の例
企業規模の大きい企業から 選びたい	売上高、時価総額
収益性(儲かる)の高い企業 を選びたい	ROA、ROE
安全性(安定している)の高い企業を選びたい	自己資本比率、 流動比率
企業価値(株式市場の評価) の高い企業を選びたい	RER、RBR
株主還元に力を入れている 企業を選びたい	配当性向、 株主優待

#### 横浜女学院高等学校

#### 家庭基礎×公共 教科横断の「金融教育」として取り組み、 有志40名の生徒が日経STOCKリーグに応募



横浜女学院高等学校では、学習指導要領に基づき高校家庭科に導入された金融教育の学習をより充実したものにするために日経STOCKリーグへの取り組みを決めました。家庭基礎と公共の教科横断で、日経STOCKリーグ参加に向けた「金融教育」としての授業を実施し、レポートの作成は希望者のみの取り組みとして実施しました。

今回は、取り組みの内容について家庭科主任の武内一恵先生にお話を伺いました。

対 象 高等学校 2 年生(4 クラス 150 名)

教科・科目 公 共:経済分野 家庭基礎:消費生活分野

時期・時数 7月~12月:レポート作成(参加希望者のみ)

題 材 名 『金融教育』資産形成を体験しよう

#### 日経 STOCK リーグの取り組みのきっかけ

#### 「資産形成って何だろう?」からのスタート。専門知識の不安をチームティーチングで補う。

高校家庭科に導入された「金融教育」を始めるにあたり、教材研究をしていく課程で出会ったものが「日経STOCKリーグ」でした。野村ホールディングスの出張授業や、活用できる教材が豊富であること、また本校の生徒は、校外活動へのチャレンジが学びのモチベーションにつながると考え、数あるプログラムの中から、日経STOCKリーグに取り組むことを決めました。

実は「投資」に関する専門知識に自信がなく不安に思っていました。そこで公共の先生に一緒に実施できないかと相談を持ちかけたところ、公共の先生が知識を教え、家庭科で実学として実践するというチームティーチングの形が実現できました。公共の先生への相談は4月以降と遅くなってしまいましたが、双方にメリットがあることが分かり、うまく調整が進みました。公共の授業では、限られた時間の中で金融や経済を教えるという難しさがあり、家庭科を使って金融教育を扱うことで時数を確保し、学びを深められるといった利点もあったようです。

#### 共同授業のねらい

日経STOCKリーグは家庭基礎でも公共でも取り組む利点や意義があります。金融経済教育は教科によって視点が異なりますので、それぞれの教科で授業のねらいを下記のように設定しました。

#### 公 共

- ①経済や金融に関する基礎知識のインプットをした上で、歴史的背景と市場の動きの繋がりについて思考する。
- ②金融商品に影響を与えうる事柄について、その過程 と結果について考察する。
- ③自分の資産形成シミュレーターへの取り組みに対して、 客観的に評価と分析をする。

#### 家庭基礎

- ①過去の値動きに基づいたシミュレーターで「資産形成」 を体験することで、自分のマネープランを現実的に 考えることができる。
- ②金融商品の特性を知った上で資産形成の難しさや面白さを体感し「長期・積立・分散」の重要性を学ぶ。
- ③日経STOCKリーグへの興味関心を高める。

#### 日経 STOCK リーグの取り組み方

本校では、1学期(4月~6月)の金融教育の一環として日経STOCKリーグ参加を前提とした授業を学年全員で実施し、レポートの作成は7月以降に取り掛かりました。全員参加が理想ですが、授業の中で実施時間を確保することが難しかったため、有志の参加とし授業外で取り組む形にしました。

また、関心のある企業について調べるポスター制作を課題にしています。その活動との接続も視野に入れ、下記のような授業計画を設定しました。

#### 授業計画 ※実際の授業計画を元に一部改編して掲載

時期	授業概要・実践内容	時数
4月	日経STOCKリーグのガイダンスと「ライフプラン・マネープランとは」  ・【家庭基礎】ライフプランをたてる・日経STOCKリーグの説明  ・【LHR】「自分の将来とお金の話」(野村ホールディングス出張授業)	2
6月上旬	「資産形成シミュレーション」 [公共×家庭基礎]の共同授業 ①基礎知識のインプットと資産形成シミュレーション ・「金融商品(預貯金・債券・株式)」とリスク・リターンの特徴 ・資産形成シミュレーター(第1ターム)の実施 ※グループワーク ②第1タームの結果発表と先生方の例紹介、第2タームへの取り組み ・資産形成シミュレーター(第1ターム)の結果発表・評価と分析 ・「金利の仕組み」レクチャー ・先生方による資産運用例紹介 ・「コンセプトを持った投資」の意識付け ・資産形成シミュレーター(第2ターム)の実施※グループワーク ③第2タームの結果発表とSDGsを意識した企業調べ ・資産形成シミュレーター(第2ターム)の結果発表・評価と分析 ・「SDGsを意識した企業調べ」 ※グループワーク ・日経STOCKリーグに向けて説明 ・振り返り	3
6月下旬	「日経STOCKリーグ」への取り組みに向けて ・野村ホールディングスによる説明(オンラインで実施) ※学年全体	1
11~12月	金融教育課題「ポスター制作」【家庭基礎】         ・関心のある企業について調査しポスターを制作	1.5
12月まで	レポート作成・フィールドワーク       ※希望者         ・Teams を活用して、適宜進捗確認       3	-
3月	発表 ・入賞チームによる校内発表	-

#### 横浜女学院高等学校

#### 各 STEP のポイント



#### 教科横断による金融教育「資産形成シミュレーション」により 日経 STOCK リーグに必要な基礎知識を培い、資産形成への興味を高める

この授業(3コマ)は、公共と家庭基礎の共同で実施しました。資産形成シミュレーションを用いて、資産運用のリスクとリターンについて理解を深め、将来に向けた資金計画の重要性を学ぶ授業です。

#### 授業の内容

#### 1. 金融商品の基礎知識を習得する

公共の教員による、金融商品のリスクとリターン、その特徴についての講義

#### 2.チームよる資産運用を計画する

生徒たちはチームに分かれて、第1ターム(2012~2017年)、第2ターム(2017~2021年)の各5年間で資産運用計画を考える。

#### 【ポイント】

インターネットは使用せず、公共や家庭科の教科書・資料集を活用して経済の歴史的背景、食料関連のニュース、 人口増加率などを参考にしながら、資産運用の組み合わせを議論する。

#### 3. 複数の教員による運用モデルを紹介

他の教員にも資産運用計画を作成してもらい、世代や家族構成などにより、さまざまな考え方があることを紹介する。

#### 4. 資産形成シミュレーターを利用して運用結果を確認

#### 授業を終えて

これらの授業を通して、生徒たちは、金融商品のメリット・デメリットを学び、どのような社会的事象が、経済に影響を与えるか理解を深めました。また長期的な視点で投資を行うことや、マネープランの重要性などを認識することができました。また、チーム内の活発な議論が金融に関して視点を拡げる機会となり、社会課題や、日経STOCKリーグでの投資テーマ、スクリーニングのポイントを考えることに繋がったと思います。

授業後には、資産運用について家庭で話し合ったという生徒もおり、関心が高まるきっかけにもなりました。



#### 金融教育課題「ポスター制作」を通し企業や投資への関心を高める

本校の家庭科教育は、「生きた家庭科」をモットーに実践しています。実学としての学び、発表する場として「ポスター制作」を行います。この課題では、コンセプトを決め、投資したい会社を調査し、1人1社ずつポスター形式でまとめます。 ポスターの表現や内容だけでなく、ポスターをどこにどのように掲示するかまでを評価対象とします。

#### (ねらい)

#### 広い視野で企業を分析する力をつける

- O好きな商品を扱う会社、業績が良い会社だけでなく、SDGsや社会貢献といった観点からも企業を調査・分析し、評価する力をつける。
- O1社だけでなく、その周辺企業も含めて調査することで、企業を取り巻く環境 や社会との関わりを理解する。

#### 主体的に情報を収集し、分かりやすく伝える力をつける

- ○投資先企業に関する情報を自ら収集し、分析する。
- 〇収集した情報を分かりやすく、論理的にまとめ、ポスター形式で発表する。

# COM STATE OF THE STATE OF THE

#### 授業を終えて

この活動は日経STOCKリーグのために開始したものではありませんが、興味のある企業を絞り、深く調べるという 共通の部分があります。この活動を通して企業分析の視点が広がり、企業や経済に関心を持つ生徒が増えたと感じます。





#### 有志 40 名(10 チーム) による日経 STOCK リーグ参加、 生徒の自主性を尊重しサポート役に徹する指導で、初参加で審査委員特別賞を受賞

生徒たちは「公共」と「家庭基礎」の授業で基礎知識を学んだ後、有志40名がチームとテーマを自分たちで決め日経 STOCK リーグへの参加を表明しました。参加する生徒たちは、基本的に放課後や休み時間を活用して各チームのペースで情報収集やレポートを進め、長期休み中の企業訪問は生徒の意思で実施しました。教員は、生徒たちがチャレンジする土壌を整えることに徹しました。ポイントをいくつか紹介します。

#### 1. 学年共通の Microsoft Teams で生徒へ声がけ

制作期間中はTeamsのチャットを活用してスケジュールや進捗状況の確認、生徒への声がけを実施することにより、モチベーションの維持向上をしました。参加で40名の手が上がったのも、Teamsで繰り返し呼びかけを行ったことが良い影響になったと思っています。

#### 2. 教員のサポート体制を構築

授業での指導を実施しない代わりに、教員に助けを求められる状況を作りました。「日経STOCKリーグ」について職員室で周知し、生徒から質問があった場合は、相談に乗って上げてほしいということを伝えていました。生徒にも、投資経験や経済に詳しい教員を伝え、「何かあれば聞いてみたら?」と背中を押しました。

#### 3. 保護者にも協力を呼びかける

金融教育やコンテストの取り組み意義については、あらかじめ保護者会でも説明しました。保護者に相談し、企業選びや、スクリーニング、レポートへのアドバイスを得ていたというチームもありました。

#### 日経 STOCK リーグに取り組んだ生徒たちの変化

#### 生徒たちの成長と学びの場

審査委員特別賞を受賞したチーム以外の生徒にも大きな影響がありました。

#### 1. クラスメイトや後輩への影響

クラスの中に一生懸命に取り組んでいる生徒がいることで、他の生徒たちの学びに も火が付きました。また、先輩たちが「金融教育」を語る姿は、後輩たちに憧れを抱かせ 次に繋がる影響を与えたようです。

#### 2. 自己受容力と他者への理解を育む

ポスター制作やレポート発表の機会を通じ、先生から声をかけられたり、友達・後輩 にも知ってもらうことで、自己受容力や、他者への理解が深まったことは嬉しい効果でした。

#### 3. 家庭での会話の活性化

生徒たちは、家で投資のアドバイスをもらったり、資産形成に関する話を聞いたりし、家族間で金融に関する知識や関心を 共有する機会が増えました。

#### 4. 世界観の拡大と経験値の向上

日経STOCKリーグを通じて、生徒たちは世界が広がり、経済や金融に関する知識が深まったと感じます。 また、「調べる」「まとめる」「発表する」といった一連のスキルを磨き、経験値を高める機会になり、それが自信にも繋がったようです。

#### おわりに

「投資が社会貢献に繋がっている」という視点が生徒たちの新たな学びとなり、レポート制作や、 発表を通じ、世界が広がったことは教員にとっても喜びでした。

また、教員も公共と家庭科の教科横断の授業を実施し、新たな可能性を感じました。限られた時間の中で、どのように取り組ませていくのかが課題ですが、家庭科だけでなく、公共や総合の先生方とも協力し、さらに深い学びへと繋がるよう模索していきたいと思います。

▶横浜女学院高等学校入賞作品紹介 Femtech ~性別を超え、輝く未来を切り拓け~







man@bow (まなぼう) https://manabow.com/

第 1 次締切

最終締切

6月末日 9月上旬

数 回

※毎年のスケジュールは別途ご確認ください。